防災対策調査特別委員会会議記録

- 1 期 日 令和3年4月14日（水）
午前9時27分 開会
午前11時15分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 足田 仁司
副委員長 土生田 仁志
委員 浅田 徹、奥村 忠俊、
清水 寛、椿野 仁司、
福田 嗣久
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主査 伊藤 八千代
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

防災対策調査特別委員長 足田 仁司

防災対策調査特別委員会 次第

日 時：2021年4月14日（火）9：30～

場 所：第1委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介 《別紙 参照》
4月1日付け人事異動

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について 《別添 事務概要》

- 政策調整部 防災課
- 都市整備部 建設課
- 上下水道部 下水道課

(2) その他

5 閉 会

防災対策調査特別委員会名簿

【委員】

職名	氏名
委員長	足田 仁司
副委員長	土生田 仁志
委員	浅田 徹
委員	奥村 忠俊
委員	清水 寛
委員	椿野 仁司
委員	福田 嗣久

7名

【当局】

職名	氏名	職名	氏名
防災監	宮田 索	防災課長	原田 泰三
コウノトリ共生部長	川端 啓介	農林水産課長	柳沢 和男
		農林水産課参事	井垣 敬司
都市整備部長	澤田 秀夫	建設課長	富森 靖彦
		建設課参事	北村 省二
上下水道部長	河本 行正	下水道課長	榎本 啓一
		下水道課参事兼係長	堀田 政司
城崎振興局長	植田 教夫	地域振興課長	谷垣 一哉
竹野振興局長	瀧下 貴也	地域振興課参事	山根 哲也
日高振興局長	小谷 士郎	地域振興課長	中川 光典
出石振興局長	村上 忠夫	地域振興課長	今井 謙二
但東振興局長	羽尻 泰広	地域振興課長	大石 英明
消防長	榊田 貴行	本部参事	金納 広行
		本部参事	中地 修

23名

【議会事務局】

職名	氏名
主査	伊藤八千代

午前9時27分開会

○委員長（足田 仁司） おはようございます。当委員会の委員長を仰せつかっております足田です。定刻より少し早いですけども、皆さんおそろいですので、始めさせていただきたいと思います。

最初に、委員長挨拶ということなんですけど、大した気の利いた挨拶はできませんが、最近、印象に残ったのはソメイヨシノもあんまりじっくり見れなかったなど。八重桜をこの間、日曜日に見てこようと思って、ぶらぶら歩いたんですけど、ほぼピークを過ぎてました。結局、一番いい状態の花を見ることができなくて、非常に今年は桜をしっかり見ることができなくて、残念な思いがしております。皆さんのご当地ではいかがだったでしょうか。結構、地域によって桜の咲き方も違ったようですけど、今年は思いのほか早めに咲いたと。これが温暖化といえますか、異常気象の一端でなければいいかなと思うところです。

新年度になりまして、それぞれ担当部署、担当者、担当部長、それぞれ異動されたりとか担当が替わったりとかいうところもあろうかと思えます。今年度初めての防災対策の委員会ということで、いろいろと意見交換ができたらいいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、梶田消防長が本日の委員会を欠席する旨の申出がありましたので、ご了承をいただきたいと思えます。

次に、自己紹介に入りたいと思えます。お手元の資料の委員会名簿、この名簿の順に従って、それぞれ自己紹介をお願いしたいと思います。

二重になりますが、ちょっと、この委員会の委員長を仰せつかってる足田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（土生田仁志） おはようございます。初めて副委員長という席をおおせつかっております土生田と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（浅田 徹） おはようございます。浅田でございます。よろしくお願いいたします。

○委員（清水 寛） おはようございます。清水で

す。よろしくお願いいたします。

○委員（椿野 仁司） おはようございます。椿野です。よろしくどうぞ。

○委員（福田 嗣久） おはようございます。福田です。よろしくお願いいたします。

○委員（奥村 忠俊） おはようございます。奥村です。よろしくお願いいたします。

○委員長（足田 仁司） 今回は、年度当初の委員会でございます。4月1日付の人事異動で、防災対策調査特別委員会所管の当局職員に異動がありましたので、ここで自己紹介をいただきたいと思えます。名簿の順に従って自己紹介をお願いします。

最初に、防災監。

○防災監（宮田 索） 防災監の宮田です。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○防災課長（原田 泰三） 防災課長の原田です。よろしくお願いいたします。

○コウノトリ共生部長（川端 啓介） おはようございます。コウノトリ共生部の川端です。2年目になります。引き続きよろしくお願いいたします。

○農林水産課長（柳沢 和男） おはようございます。農林水産課長の柳沢です。引き続きです。どうぞよろしくお願いいたします。

○都市整備部長（澤田 秀夫） おはようございます。都市整備部の澤田です。（「もう一人」と呼ぶ者あり）すみません、失礼します。

○農林水産課参事（井垣 敬司） 改めまして、農林水産課参事の井垣と申します。私も2年目になります。引き続きよろしくお願いいたします。

○都市整備部長（澤田 秀夫） すみません、おはようございます。澤田です。今回よりお世話になることとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課長、富森です。引き続きよろしくお願いいたします。

○建設課参事（北村 省二） おはようございます。この4月の異動で、都市整備部から建設課参事になりました北村です。よろしくお願いいたします。

○上下水道部長（河本 行正） おはようございます。上下水道部長に異動になりまして、引き続きですけ

ども、またよろしくお願いいたします。河本です。

○下水道課長（榎本 啓一） 失礼します。下水道課長の榎本です。この委員会初めてです。どうぞよろしくお願います。

○下水道課参事（堀田 政司） 下水道課参事兼施設係長の堀田と申します。どうぞよろしくお願います。

○城崎振興局長（植田 教夫） この4月1日で城崎振興局長になりました植田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課長（谷垣 一哉） 城崎振興局地域振興課長の谷垣と申します。引き続きになりますけれども、よろしくお願いいたします。

○竹野振興局長（瀧下 貴也） 竹野振興局長の瀧下でございます。よろしくお願います。

○竹野振興局地域振興課参事（山根 哲也） 竹野振興局地域振興課、山根です。2年目となります。どうぞよろしくお願いいたします。

○日高振興局長（小谷 士郎） 日高振興局長の小谷士郎と申します。よろしくお願います。

○日高振興局地域振興課長（中川 光典） 日高振興局地域振興課、中川と申します。引き続きです。よろしくお願います。

○出石振興局長（村上 忠夫） 引き続きお世話になります。出石振興局、村上です。どうぞよろしくお願います。

○出石振興局地域振興課長（今井 謙二） 出石振興局地域振興課、今井です。引き続きよろしくお願います。

○但東振興局長（羽尻 泰広） おはようございます。但東振興局長の羽尻と申します。よろしくお願います。

○但東振興局地域振興課長（大石 英明） 但東振興局地域振興課、大石と申します。よろしくお願います。

○消防本部参事（金納 広行） 消防本部参事、金納です。引き続きよろしくお願います。

○消防本部参事（中地 修） 消防本部参事、中地です。この委員会初めてとなります。よろしくお願

います。

○委員長（足田 仁司） 続きまして、事務局。

○事務局主査（伊藤八千代） 失礼します。事務局の伊藤です。引き続きです。どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長（足田 仁司） 紹介は終わりました。

それでは、4番の協議事項に入ります。

現在、常任委員会、特別委員会の会議録を市議会ホームページで公開をしています。つきましては、委員の皆さん、当局の皆さんにおかれましては、次の2点についてご留意をお願いします。1つ目は、数字、年月日などについて、言い間違いのないよう、正確をお願いをいたします。2つ目として、個人情報や未確定事項などについて、不適切な発言がないように慎重を期していただきたいと思ひます。

まず、（1）委員会所管事項について、別添資料として本日、2021年度豊岡市事務概要をタブレットのほうに掲載をしております。事務概要書に基づき、当局から説明を一通り受けた後に、各委員から質疑を受けたいと思ひますので、次第に記載の政策調整部、都市整備部、上下水道部の順でお願いをしたいと思います。

それでは、政策調整部防災課よりお願いをいたします。

原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 5ページをご覧ください。防災課からは、防災マップの更新とマイ避難カードの普及啓発についてご説明をさせていただきます。

現況と課題でございます。市民が災害時に自分自身や家族などの大切な命を守るためには、逃げどきをしっかり認識いただくこと、それから、逃げどきを検討する際には、自分自身やご家族が置かれている災害リスクを正しく把握することが非常に重要なことになってまいります。市では2016年に防災マップを更新をしておるんですが、その後、2020年度には兵庫県が県の管理河川の浸水想定を見直したりだとか、あと、市内全域での土砂災害の特別警戒区域の指定を完了させたことから、このほど、こういったデータの最新ののものにしたものを防

災マップに反映させるというような事業でございます。

続きまして、基本方針でございます。この防災マップについては、現在、全戸配布させていただいてる防災マップ同様、行政区別の図郭としまして全戸に配布をする予定としております。この防災マップの啓発なんですけど、既にさきの議会等でもいろいろなご質問、ご指摘をいただいているんですけども、やはりしっかりと啓発をしていかななくてはならないということで、メインに、市と地域コミュニティ組織が協働で取り組んでる防災ワークショップっていうのを、毎年3地区から4地区程度実施しておりますこの防災ワークショップ、それから、コロナ禍で少し出前講座、鈍ってますけども、非常に回数を多くやっております出前講座等の機会を活用しまして、防災マップの活用方法について、しっかりと理解を深めていただきたいというふうに考えております。命を守るということのために、防災マップで災害リスクを正しく把握していただいた上で、逃げどきや逃げ先を定める必要があるということ、さきに申し上げましたが、このため、防災マップの啓発に当たっては、必ずマイ避難カードというものをセットで啓発をしまいたいと考えております。

なお、マイ避難カードなんですけども、防災マップで自宅の災害リスクを確認をしていただいた上で、いつ、どこに、どのようにして、誰と、あと、持ち物なんかもどういったものが必要だというようなことを定めていただいた上で避難するというようなことを、最善策、次善の策、三善の策での、この3つを選択肢として記入いただくようなカードになっております。すみません、ちょっと後ればせながらレターケースの中に入れてさせていただいておりますので、またご確認を後ほどいただけたらと考えております。防災マップとともに命を守るための重要なツールとして、この2つのものを併せて普及してしまいたいと考えております。

続いて、概要です。できましたら、8月の市民総参加訓練に間に合うように全戸配布して、啓発をし

てまいりたいと考えております。この防災マップでございます。防災マップはA3のサイズ、今の防災マップ同様、A3サイズといたしまして、表面には計画規模の降雨による浸水想定区域、それからあと避難場所、それから土砂災害特別警戒区域などを表示しまして、裏面には避難に関する様々な重要な用語だとか、あと、私はまず避難しないといけないのかとかから始まる、何ですかね、避難のためのフロー図、避難行動判定フロー図というようなものを掲載をしたいと考えております。新しい防災マップについては、マイ避難カード同様、市のホームページにも掲載するほか、市のホームページに小学校区別ぐらいの大きさで確認することができる想定最大規模の、当然こちらにも避難所なんかも載ってますけども、そういった想定最大規模のマップについても掲載をすることとしております。

防災マップやマイ避難カード、先ほど出前講座やワークショップでの啓発というふうにご説明しましたが、この8月、今度は地震を想定した市民総参加訓練を行うんですけども、その際にも、この市民総参加訓練自体は、単純に30分から40分ぐらいで多分終わってしまうと思う内容ですので、その後の時間を利用して、こういった防災マップだったり、マイ避難カードだったりの使用方法だったりとかについて確認いただくような啓発も進めてまいりたいと考えております。

防災課からは以上でございます。

○委員長（足田 仁司） 次に、都市整備部建設課をお願いします。

富森課長、どうぞ。

○建設課長（富森 靖彦） 建設課からは2件報告させていただきます。

1件目の雪害対策事業の推進につきましては、私、富森が、2件目の円山川水系河川整備事業の推進については、北村が説明させていただきます。

それでは、6ページをご覧ください。豊岡市の市道の総除雪延長につきましては、車道、歩道合わせまして約745キロあります。これを180台の車両で除雪作業を行っております。除雪機械等の老朽

化が進んでいく中で、受託者の所有機械の更新がなかなか進まない状況であるとともに、作業員も高齢化等によりまして、業者の確保が困難な状況になりつつあります。あわせて、消雪施設等の老朽化にも対応が必要となってまいります。

基本方針ですが、計画的な除雪機械の更新と市の保有機械の増強を行うとともに、県と連帯いたしまして、国県市道の効率的な除雪方法等を検討すること、それから、きめ細やかに気象情報を提供することによって、業者の待機回数を減らすなどの負担軽減を図ることで、受託業者の確保を図ってまいりたいというふうに思っております。

今年度の予定といたしまして、概要に記載しておりますが、除雪対策といたしまして、1番目の除雪機械の更新、これにつきましては、今年度は2台の機械の更新を予定しております。まず、日高地域で4トン級の除雪ドーザーの増強、これを1台、それから城崎地域につきましては2トン級の除雪トラックの更新1台、これを予定しております。また、消雪施設の更新につきましては、城崎の湯島地内の市道一の湯松崎線ほか、消雪施設の修繕ということで、これは昨年度からの引き続きの消雪施設の修繕となっております。あわせて、この消雪施設につながっております揚水ポンプ、この更新工事も今年度予定をしております。その下ですが、豊岡地域の市道大篠岡駄坂線の消雪施設の修繕工事、これにつきましても、昨年度からの引き続きの工事となっております。それから、最後ですが、竹野地域の市道上町賀島公園線ほか、消雪ノズル交換、これにつきましても、昨年度に引き続きまして消雪のノズルの交換をする予定としております。

私からは以上です。

○委員長（足田 仁司） 北村参事。

○建設課参事（北村 省二） 私のほうからは、円山川水系河川整備事業の推進についてご説明いたします。

7ページをご欄ください。現況と課題、基本方針ですが、2013年度から円山川水系河川整備計画を基に、河川整備事業が実施されております。市は

計画で示された実施内容の事業推進を図るため、国、県並びに関係機関との連携を一層強化し、用地買収の協力や地元調整に最大限の支援をいたします。また、事業の早期完了を目指し、積極的に国や与党政党等への要望活動を行います。

概要ですが、まず、国の円山川河川整備事業関連の予算としまして、2020年度の補正予算額26億円、2021年度当初予算額26億円、合計52億円が計上をされております。

2021年度の整備内容ですが、1つ目としまして、無堤防地区の解消として、瀬戸・津居山地区では引き続き整備案の検討を国が主体となって行っております。また、ひのそほか地区ではパラペット樋門上屋の設置、来日橋かけかえ工事を継続して実施されております。なお、橋梁上部工は既に発注がされております。鶴岡・日置地区では、向日置地区で向日置橋の下部工事、それから堤防整備工事が継続して実施されております。鶴岡区の多田野谷地区では、用地買収を継続して実施されます。日高地区では築堤工事を継続して実施されます。

2つ目、中郷遊水地の整備でございます。下池については、昨年に引き続き掘削、築堤工事が継続して実施されております。上池についても継続して用地買収を実施し、新たに掘削、築堤工事が実施されます。

3つ目です。堤防裏のり尻補強工事でございます。円山川と奈佐川、出石川で継続して実施されております。

8ページをご覧ください。要望活動ですが、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会で国交省、財務省に要望を予定しております。

その他としまして、国交省は、水災害リスクの増大に備えるため、円山川水系でも円山川流域治水協議会を立ち上げ、流域全体で緊急的に実施する流域治水プロジェクトを策定しております。3月30日に公表されておりますので、お手元に今日、参考資料としてお配りしておりますので、ご確認をください。

以上で建設課の説明を終わります。

○委員長（足田 仁司） 次に、上下水道部下水道課
お願いします。

堀田参事、どうぞ。

○下水道課参事（堀田 政司） 下水道課からは1件
です。雨水整備事業として説明させていただきます。

9ページをご覧ください。現況と課題、基本方針
につきましては、これは前年度と同じ内容ですが、
も、雨水整備は現在、雨水幹線39.4キロメー
トルの計画に対し、15.0キロメートルの整備を終
えているところです。整備率は約38%となってお
り、今後もさらに水に強いまちづくりをつくる方針
で取り組んでいきたいというふうに思っております。

概要ですけれども、2021年度の事業としまして
は、福田排水区の福田地区での内水対策として、山
田川雨水幹線整備事業を、前年度から工事を着手し
ておりまして、約3年間で総延長1,000メー
トルの整備を行うこととしております。2021年度
は約236メートルを施工することといたしてお
ります。

10ページに、下水道課の説明資料として位置図
を添付しておりますので、ご清覧をお願いします。

下水道課からは以上です。

○委員長（足田 仁司） 説明は終わりました。

質問等はございませんか、特にないですか。

それでは、ないようですので、事務概要に……（発
言する者あり）

浅田委員。

○委員（浅田 徹） せっかくお集まりですので、
まず、ちょっと、じゃあ、今は簡単にお答えいた
したら、継続分もありますので。

一つは、防災マップの関係です。8月に全戸にわ
たるように準備を進めていただいています。普及の仕
方がコミュニティのワークショップ、また出前講座
というふうなことになってます。これはやはり地域
の高齢化、どんどん進んでいます。それとまた、あ
る地域ではやっぱり賃貸のアパート、分からない、
地域の地勢とか地形とか、内水、治水の状況の分
からない若い方っていうのもたくさん移り住むとい

いますか。言い方悪いですけども、そういう中で、
例えば個人ごとの、特にマイ避難カード、変な意味
でなく、私の地区を見ますと、世帯数が500世帯
です。アパートが230世帯、その中で高齢者は1
70名、そのうちの50世帯が独居です。どうい
うふうに安全に避難させるか、マイカードをどのよ
うに独居の50名、また、170名の高齢者の所帯に
一人一人どのタイミングで、言われた、いつ、どこ
に、どのように、誰とというふうなことをね、非常
にこれ、自治会の地元だけでは非常に困難かなとい
う思いはします。

その辺の関係で例えば福祉職場、つまり、災害弱
者イコール、どうしてもそういう福祉的な、言わば
行政の関わりの多い、例えばそれぞれの地区での施
設、デイサービスとかいろんなところに活動されて
ますけれども、そういう取組ですね。いかにまず高
齢者の方に行き渡る、やはり自覚を持っていただく
というふうな手厚い、手厚いっていったら、やっぱ
り命に関わることでありますから、そういうことは
どうかというものが1点と。

もう一つは、本当に若い方たちですね、来られて
何もこう、平成16年23号の決壊、浸水、全くこ
こは経験されてない方たちの、その辺のところの危
機感を持っていただく、そういう普及の仕方、これ
をお尋ねしたいと思っています。

それと次に、これも雪害対策です。これは、あく
までも市は除雪というふうなことになってます。と
ころが、やっぱり今回、今年経験しましたのは、や
はり除雪ができた、できないというよりも、むしろ
雪害の、例えば倒木等。それも市道、県道等、やは
り隣接する山地の人工林、いや、管理のできてない
人工林といいますか、それとかトンネルでしたら明
かり部の、上からの竹とか、そういう個人の土地に
係る、そういうものが電線を切断したりとか道路に
倒れてできないと。こういうことについても、やは
り雪害というのは、除雪じゃなくて雪に関する災害
ですので、その辺の対応をどのように考えていくの
かというふうなことがあると思います。

それと最後、川の関係です。一番ここを期待しま

すのは、これは8ページですか、やはり流域治水という、新たな、言わばフレーズに国が本腰を上げてやっていく。我々、防災の特別委員会も河川の系統、系列、その中で、どのように水が円山川本川に流れていくかというのを現場見ていったわけですが。そういう、まだこの流域プロジェクトが始まって策定云々ということですが、これも実施というんか、もう少ししてこ入れするようなこともたくさんあると思ってますけども、これについての所管、担当課で、これで一番、円山川の最下流域にある豊岡市といいますか、この辺でどのようにこのプロジェクトの内容についての評価といいますか、どう思っておられるのか、この辺をちょっとお尋ねすると、以上です。

○委員長（足田 仁司） 何点かありました。

原田課長。

○防災課長（原田 泰三） 私のほうからは防災マップ等の啓発についてということで、高齢者の方だったり、独居の方だったり、あと、若い世代の啓発ということなんですけども、議員おっしゃられるように、なかなか出前講座とかワークショップっていったら、来た人はしっかりと学んで帰ってこられて、その方々がどの程度、啓発を地域に広めていただくかという期待に負うところが非常に大きいんです。ですけども、まずそういった方々をしっかりと、インフルエンサーといいたいでしょうか、そういう啓発の先駆者みたいな形で取り組んでいただくという意識を持ってもらう、女性とかもひっくるめて満遍なく持っていただくというのが一つございます。

ただ、ご指摘のとおり、そういった高齢者の方がかってなると、どうしても難しい面がございます。市の、防災課のほうでは毎月か2か月に1回、定期的に健康福祉のほうでやっていますケアマネ連絡会、100人ほど、今ちょっとコロナの関係でどういうやり方をされてるかは分からんともあるんですけども、そういったケアマネジャーさんが集まる連絡会議っていうのが定期的にかかれてまして、そういった場に、特にご高齢の方だったりとか、そういった独居の方、それから支援者はおるんだけど、

遠方におられてちょっと支援が行きづらいみたいな方々については、そのケアマネさんのほうからその方の、本人はさすがになかなか理解が難しいなという方もおられると思いますので、例えばご家族だったり、いわゆる連絡を取るっていう緊急連絡先の方だったりとか、そういった方々に対して、いざとなったら、こういうような逃げ方をさせていただくように市から求められてるんだみたいな話もしていただきつつ、取り組んでまいりたいなというのが一つございますし、もう既に、そんな毎月ではないんですけども、定期的に出水期前に1回、必ずケアマネ連絡会のほうにお邪魔させていただいて、こういうような取組を始めますとか、こういうマップができましたっていうようなことの説明なり啓発のお願いというのはさせていただいておるところでございますが、残念ながら、まだ、その結果、じゃあ、その方々がどのような啓発をしてくださってるのかまでのちょっと把握はできてないので、その辺りもイメージしつつ、取組をしたいなというふうに考えてます。

それから、あとアパートの方とか若い方というのは、やはり幾ら言っても、これは一般の方にもよるかもしれませんが、興味のない方は何ぼ言っても興味がないということです。逃げろと言っても、逃げない方は逃げないというところがございます。実際、そういうこともあると思います。ですので、例えばマイ避難カードだったり、防災マップというのは、いわゆる紙媒体だけではなくて、例えばひようご防災ネットのアプリとか、そういったもので実はマイ避難カードがつくれるようになってます。私も、マイ避難カードは紙のほうじゃなくてアプリのほうでつくってるみたいなこともありますので、その方々の、その層が興味を持つような媒体を使って、啓発を粘り強くしていく。それからまた移動して、引っ越して来られた方とかっていうのは必ず防災行政無線を設置してっていうようなこともしておりますので、そういった防災行政無線であったり、ホームページであったり等でアプローチをしていきたいなというふうに考えております。

防災マップの件については、私のほうから説明させていただきます。

○委員長（足田 仁司） 一通り答弁。

○委員（浅田 徹） どういうふうに。

○委員長（足田 仁司） 一通り答弁をお願いします。
富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 私のほうからは除雪の関係で答弁させていただきます。

市道管理の観点からちょっと答弁させていただきますと、当然、降雪期に限らず、市道については定期的にパトロールさせていただきますして、当然、市道のり面であれば、倒木、木が倒れそうなものであれば、市として処理はさせていただきますし、既に道路にかかっているとかっていうことで交通に支障のある場合であれば、民地であっても応急的に処理はさせていただくようにしております。ただ、民地ののり面で、現にまだ何も道路に影響がないとかっていうようなことで倒れそうだとかっていう、明らかに倒れそうだとかがあれば、その所有者の方に連絡して何とかっていうことはお願いするということもしておりますが、実際にそれ対応、なかなかしていただけないということがないという状況にもあります。

この冬の降雪によりまして、特に12月の中旬の雪では倒木が電柱、電線にかかって、道路が寸断されたとかっていうようなことがあったんですが、先日3月末に関西電力さんとも、いろいろとその辺りのことも協議させていただきましたして、関西電力さんにつきましては、基本的には事前に、倒れてきて電線に引っかかりそうな木があれば、事前伐採ということで所有者の方に了解を得て枝を払ったり、根元から切ったりというふうにされているようですし、いざ、また木が倒れてきて電線にかかってしまっただけで道路が寸断されて、例えばその先の除雪ができないということがあれば、市としましては関西電力さんと協力して、当然、電線が、線が生きてれば作業はできませんので、撤去したりというふうな。その辺りも電気が来てないとか来てるとかっていうことを判断していただけるような方を派遣してい

ただ中で、市のほうも、例えば倒木を処理をして、除雪できるようにするというような作業を協力はさせていただくというような方向で今、関西電力さんとは協議をさせていただいているような状況です。

答弁は以上です。

○委員長（足田 仁司） 北村参事。

○建設課参事（北村 省二） 私のほうからは流域治水プロジェクトについてお答えをさせていただきます。

流域治水プロジェクトっていうのは、おおむね5年から10年を1サイクルとして考えております。先ほどちょっと資料をつけさせていただいておるということでお配りをさせていただくとるんですけども、これは、あくまでもどの場所でどういうことをするかっていう計画を図面に落としたものでございます。当然、1サイクルが10年でありますので、やはり長い期間の計画になってます。その中では実際にやられたもの、そして見直しをするもの、当然出てくると思います。あくまでもこれは長いサイクルですので、当然検証というものもしなくてはいけないと。検証するにはやっぱり流域ですので、養父市、朝来市、それから豊岡市というふうなことで円山川流域治水協議会というのが立ち上げられておりますけども、そこで検証しながら、当然見直しするものは見直ししていくというふうなことで、毎年のようにできたもの、できてないものっていうのは検証していく必要があるのではないかなというふうには考えております。以上です。

○委員長（足田 仁司） 答弁は終わりました。

浅田委員。

○委員（浅田 徹） 丁寧なお答え、ありがとうございます。特に防災関係、やはりいいものをつくっていただいても、今、原田課長言われたように各自治会に丸投げじゃなくて、今言われたようなことをしっかり取り組んでいただきたいなという思いがあります。今のところは、もう全市についてそのようをお願いしたいなと思ってます。特に土砂災害、今、簡易雨量計云々というのがあるわけですけども、

やはりなかなかこれがやっぱり崖地の下に住んでおられて、その辺の認識といいますか、崩れればもう命を失う、建物そのものが崩壊してしまうところがもうレッドゾーンになってますので、あわせてその辺の、やはり早く逃げていただく、まあまあ、経験的じゃなくて、その辺も、特にレッド地域についてはお願いしたいなと思ってます。

それと、市道の雪害です。この春も、気づいたのは国道426、戸辺羅山トンネル、東からトンネルで病院に行くこのバイパス、これは今森高屋下陰線の明かり部ですけどもね。山側も大規模に倒木、伐採、特に竹、竹林があったと思うんですけども、あれは多分、個人山じゃないかなと思ってますけども、もうかなり大規模な伐採が行われて、そういう対応も既に主要な、これは国道ですけども、やられておられるのを見て、やっぱりそういう備えといいますかね、こうトンネル、谷あいの狭所、峡平な雪が積もりやすい、またたまりやすい、そういう箇所を、やっぱり危険箇所の対応、これからも来年に備えて、やっぱり個人の木一本でもなかなか難しい方もあるようでして、切ることですね。勝手に切っても、非常に後でもめるということも聞いておりますので、その辺しっかり対応をお願いしたいなと思ってます。

それと、今の流域治水です。これ、こういうことについては、大きなこれからの展開を期待したいと思ってます。ただ、県のほうが示してます総合治水ということで考えれば、今回、これ、円山川流域というふうなことですけども、やはり豊岡市にはもう一本こう、国管理じゃなくても県管理の竹野川があります。竹野川も去年、中流域、特に中竹野で地形上、やはり勾配が変わる、それから大きく川が蛇行する、下流ボトルネックというようなことで、ほとんど中竹野地域については、避難所そのもの水没というふうなことが、数字的には出ております。だから、この辺は県のほうも含めて、これは、竹野振興局の皆さんは地域の地勢、地区の状況をよく熟知しておられると思いますけど、やはりいち早くこういうことについても、しっかり逃げていただいたり、

ためる、流す、そういうものをやはり県管理ではありませんけども、強く具体的な、この円山川と併せて、もう流域全体で考えるというふうな方向を、何とかお願いをしておきたいと思います。

私のほうからは以上です。

○委員長（足田 仁司） ほかにありませんか。（どうぞ）と呼ぶ者あり

奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 2つお尋ねしたいんですけども、先ほど円山川水系の河川整備計画について説明がありましたんですけども、事業期間が2013年からおおむね20年間というふうになってますけども、半分ぐらい過ぎたわけですから、進捗率といいますか、これについて説明していただきたいことが一つと、もう一つは、堤防のり尻の補強というのがありましてね。それ、出石川見ますと、今、全体的に非常に頑張っていたいて工事がもう進んでるなと思うんですけど、そのことではないかと思うんですけども、その進捗状況というんか、一斉にかかっておられるということがありますので、非常にありがたいんですけども、これ、いつ頃完成するのかなというのもまたありまして、先ほど初めの説明もあったように、また台風、その他、今後、自然災害もあるわけですので、そういったもので間に合うというようなことであるのかどうか、その辺について説明していただきたいと思います。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 全体の進捗率っていうのはちょっと把握できておりませんが、先ほどの無堤防の事業とか中郷の遊水地、それぞれ事業があるんですが、当然、例えば中郷の遊水地の事業であれば一昨年度から始まって、今、下池掘削を進めてまして、この後が上池になるということで、先ほども説明しましたように、結構な予算もついておりますので、どんどん進捗していくんだろうなというふうには思ってます。ちょっと率までは申し訳ありません。

あと、無堤防につきましても日高地区につきましては、一部、江原のところが残ってるだけでほぼ完

成しておりますし、ひのそにつきましても、パラペットにつきましても、奈佐小橋から来日橋のところまで規定の、完成の高さまでできているというような状況で、20年間という長いスパンではありますが、そんなに遅れてるというイメージは私も持っておりませんし、順調に進んでおると思いますし、国土強靱化の加速化計画ということで、今年度からまた5か年で多くの予算もついておりますので、順調に進んでいくというふうに考えております。

○委員長（足田 仁司） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 大変長い期間の事業の、非常に面積も広いし、対象地域も非常に多いので、どこを優先するかについて、自分の地域をという、そんなつもりはないんですけどね。ただ、毎年、台風がやってくるわけですし、大水も来るわけですから、皆さん心配しておられるという状況はあると思うんです。そういった中で、こういう計画があるわけですから、それがどの程度進捗しているのか、あるいは順番的にはどうなのかというところ辺は、国の工事かもしらんけども、そっちに任せっきりで市のほうが把握していないということでは、これはあんまり面白くないと思うんですよ。ですから、今、国がされている事業で、今日まではどこまで進んだか、そしてこれからはどうなのかと。特に今年ですね、新年度については、どういうところまで工事をしようとしているかというのは、これは問合せをされたり、現場見せていただく、説明いただくとかいうことで把握できそうな気がするんですよ。把握したって、全然じゃないけれども、把握されてないという言い方では少しちょっと理解しにくいんですね、それは。その辺、どうなのかなど。

それからもう一つは、特に私は出石に住んでいるわけですし、大きな台風がありましたけども、そういったものを経験する中でね、堤防の強化って非常に大事なことだなというふうに思ってます。しかし、範囲も広いし、お金もかかるわけですから、そんなに簡単にできるものではないということも重々承知はしてますけどね。例えば今、出石川の例をいえば、一斉に本当にいろんなところで工事かかってま

すわ。大変ありがたいなと思ってますけどね。じゃ、これの今の状況はどうなのか、完成はどうなのかということについては、これは計画ですから、先になると思うんですよ、国交省のほうでは。それをやっぱり把握してもらわないと、それは国の工事やから、そっちに任せたらいいってということではないと。地域の人たちは、それはやっぱり期待と同時に心配もしておられるわけですからね。少し、今の答えがでなければ後でよろしいから、ちょっと説明していただきたいなと思います。

委員長、どうですか。今、説明ができないということだったら。

○委員長（足田 仁司） 何か説明できれば。

富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 率ということではちょっと把握というか、はさせていただいてないんですけど、状況とかっていうのは、今年度とか今の状況というのは把握はさせていただいているんですけど。

○委員長（足田 仁司） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 把握されている、今、工事しておられるんで、具体的に今年はどういうところまでするかということがですな、明らかでなかったら工事進まへんと思うんですよ。そこも、そこまでやっぱり教えてもらって、地域の人たちの安心感も持ってもらわな困るんでね。ですから、やっぱりもう少し把握をして、具体的にですな、今年はどういう工事まで進みますとかということ言ってもらわないと、ちょっとまずいと思うんですよ。今、答えられなかったら後日でもよろしいから、皆さん、みんな関係するわけですから、説明をしてもらいたいと思う、どうでしょう。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 予算的な規模については国のほうで今、先ほども言いましたように2.6億円ということで今年度ついとるんですけど、ちょっと具体的にどの部分でどこまでというのは、まだこちら把握できていないというより、まだそこまで決まってないというふうにちょっと聞いておるんです。公表はまたされるんですけど、まだ公表が具体

的にどこの場所でどれだけというのがちょっと公に公表されておられませんので、当然公表され次第、この分については説明をさせていただく予定にしております。

○委員長（足田 仁司） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 何回も繰り返して悪いけども、分かった時点でよろしいんですよ。しかし、例えば今、工事してる堤防のどこね、あれ、のり尻というか、どういうんかちょっと分からんけども、そういう工事やってるんだから、それは何年計画でいつまでに仕上げるかということは決まってると思うんですよ。毎年、工事のしかけのままで終わり、またしかけのままでやると、そんなことはないと思う。今、着工しとらんことでどうだろうか、これは例えば1年後あるいは2年後に完成するということなのか、そこまではですよ。続きはまた先になるでしょうからね。それは、やっぱり把握しとってもらわなきゃいんじゃないかと思うんですけどね。それは分かりませんか。分からなかったら聞いていただいて、また後で。

○委員（浅田 徹） 議事進行、よろしいですか、ちょっと休憩、暫時……。

○委員長（足田 仁司） 暫時休憩。

午前10時15分休憩

午前10時18分再開

○委員長（足田 仁司） 会議再開します。

富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 出石川で今、工事、裏のり尻させていただいてる部分については、今年の出水期までには、6月までには終わるというふう聞いております。（呼ぶ者あり）はい。

○委員長（足田 仁司） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 今年ということで聞きましたんで、浅田さんの話もあったんですけども、それが一つ分かった。ただ、引き続き工事はいろいろなかかっていただいておりますのはあると思うんですからね、そういったことについてやっぱり国としての計画というのがあると思うんですよ。ですから、そ

ういったものについてやっぱりよく把握をしてですな、できれば資料として、計画年度決まってるんでしょう、これね。どうでしたかな、ああ、2013年からおおむね20年間ということですからね、26億円ずつの予算がつかしました。そうすると、今後どうなるかということについても、やっぱり地域の方々はそれぞれに期待しておられる、待っておられるわけですから、しっかり把握をしてですな、その点についてもこの委員会でも報告をしていただき、資料も頂ければと私は思っております。要望としておきますけど、ひとつよろしく頼みます。説明があったら、ひとつお願いしたい。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 言われましたように、こちらも把握させていただきまして、当然、国のほうとしても出せる情報ということで確認させていただいて、計画があれば、当然、今年度の予定だとかってというのは説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

○委員（奥村 忠俊） しっかりお願いします。

○委員長（足田 仁司） そのほか。

椿野委員。

○委員（椿野 仁司） 河本部長も少ししゃべりたいんかなと思って、うずうずしとるんとちゃうんかなと思ひながら見ておりました。

今度は円山川の下流域のほうにちょっと話を替えさせてもらいます。特に豊岡港線の左岸のほうなんだけども、やはりかなり時間がかかって、時期もかかって、かなりの大きな工事なので、大変だなというところ辺はよく分かってるし、それから地域の皆さんも忍耐強いのか、何も言ってこられないんか、私のところにはあまりお聞きはしないんだけど、苦情らしいことはね。

ただ、今、奥村さん言いなつたように、一体いつ完成するのかなというところ辺が。当初いろいろと部分部分で説明は聞いてはおるんだけど、なかなか進捗率までは言わないんで、そこまでは言わなければ、一体、本当にいつ完成するのかなというところ辺がまだまだちょっと私自身もよく分か

んない。来日が終わっても完成品ではなくて、あそこのね、入り口が終わったところでも完成品ではなくて、まだまだ穴が空いてるところが幾つかありますね、築堤でね。ああいうところ辺も事情はよく聞いてはいるんだけど、一体全体、本当にどうなっていくのかな、どうしていつているのかなっていうところ辺が分かんない。言うに言えないこともあるんだろうし、事情もあるから、あんまり地域で騒ぎ立てることもいかなものだと思うんだけど、地域の皆さんが協力できるようなことは協力していただけるような体制づくりも大切なのかなというふうに思うんですね。何もかも国だ県だっていうところ、市だっていうところにお任せじゃなくてね。

だから、ある程度のときに来たときには、じゃあ、地域の皆さん、地区の皆さん、そういったところもやっぱりご協力をいただけたところは、もうちょっとそういうふうなことを、ちょっと胸襟を開いてやるっていうことも大切なことではないのかなというふうに思うんだけど、ちょっとぼやっとしたような質問になっちゃって申し訳ないけど、一体全体、豊岡港線はいつ完成するんですかっていうことと、目標は掲げてもらうことは構わないと思うんで、目標は結構勇気っていうか、我々からすると、すごくそれは安心感が出てくるので、それをまず簡単に説明していただいても結構ですから、ちょっといかがですか。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 今、ひのそほか地区、下流域については来日のところを工事されているんですけど、来日橋の橋梁の兩岸の下部工、今できてます。その辺りも地下の状況等によって、工事が遅れたということもちょっと聞いております。実は、この地域への説明っていうのを1月ぐらいにちょっと、あの辺り、城崎地区の下流域のほうでしょうということで計画してたんですけども、新型コロナの関係もあったりをして、ちょっと延び延びになってまして、この4月以降、再度日程を調整して、地域には国、それから市も一緒に入ってどういう状況

かということや、どこまで説明されるか、なかなか完成時期まで国のほうはなかなか言われませんので、どの程度説明されるのか分かりませんが、地域には一度入って状況の説明はする予定には今しております。以上です。

○委員長（足田 仁司） よろしいですか。

○委員（椿野 仁司） 把握しているところは、じゃあ、例えばあと10年後に完成するのか、5年後に完成するのかって、そんなこともまだまだ言えるような状況ではないってこと。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 具体的に何年に完成するっていうのは、国のほうはちょっと言われないので、こちらもちょうと何年に完成しますはということではちょっと言えないです。

○委員長（足田 仁司） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） まあまあ、特定のところの、特定の場所のことを言ってもあれなのか分からないけれども、多分、私の記憶だと三、四年ぐらい前に、四、五年ぐらいはかかりますっていつて言われたことが、もうそろそろタイムリミットが来るのではないのかなというふうに思うんだけど、そういうこともちゃんと地域に説明はしてると思うんだけど、円山川下流域におられる方に、全てにそれが把握ができてるかっていうのはちょっと分からないんだけど、でも、結構のやっぱり交通量だからね。うん、だから、皆さん、それはやっぱりいいものを造ってもらうと思って、皆さん協力してもらってくださると思うんだけど、この辺がある程度のめどがついたときに、大体あと3年後には完成を予定をしますよとか、あと5年っていうふうなこともいうのは、何かある程度の機会にはやっていただきたいなというふうに思うんです。

それで、さっき言った穴が空いてる、穴が空いてるっていう、要するに築堤ができてないところだとか、こういうところも部分部分。それから、道路がやっぱり上がったり、下がったりっていうところがあって、じゃあ、あれはどこまで上がるんですか、どこまで下がるんですか、どこから平地に

なるんですかって、この辺のところも全く現状としては、分かってる人はほとんど少ないのではないのかなというふうに思うんですよ。だから、必要以上に知らせる必要はないと私は思いますよ、下手に混乱するだけだから。だけど、その辺はうまく調整をしてやっていただきたいなというふうに思ってます。

それから、一つ希望を言わせてもらえるなら、前からずっと言ってるんだけど、せっかく左岸の道路をずっとよくして行って、パラペット築堤を造って行って、かさ上げをしていくってということもあるんだけど、JRとの関係のところがあるんで、なかなかJRと話がうまくいってるのかいってないのか、僕には分かんないんだけど、ひのその辺りがずっと今の、何ていうの、電柱がかなり県道側に出てきてるわけですよ。あそこ、すごいたくさん事故が今まであって、皆さんも走っておられると分かるけれども、大型が来ると、ちょっとくっくとブレーキ踏まざるを得ないというのは、たくさんあの辺に箇所がある。ああいうところは、今度の整備計画で、整備に関して、道路環境をよくするための、何かそういった計画は持ち合わせているのか持ち合わせていないのか、それは今、そこは今日初めて聞きましたってということなのか、その辺はいかがですか。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 道路計画については、当然かさ上げをさせていただいて、車に乗ってても川が見えるぐらいの高さにということは聞いておりますが、線形的なことについては、ちょっと最終的にどうかということについては、聞いてないというのが状況です。

○委員長（足田 仁司） 椿野委員。

○委員（椿野 仁司） そしたらね、これは警察にも言うところなんだけど、再度、もう一度、いろんなところからご意見言わせてもらいますから、そういったJRの敷地、そして道路等々の関係もあるのはちょっとね。その辺はやっぱり道路環境をよくするというのであれば、こういうときにしかできないんで、ぜひともそれは課長、頭に入れておいても

らって、現場も見てもらったら分かるから、それは分かっておられると思いますし、分かるはずですから、その辺はよくこれから対応していただきたいというふうに思います。以上です。

○委員長（足田 仁司） そのほかございませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 私からは雪害の対策のことについて少し、建設、それから振興局の関係もありますけれども、聞かせていただきます。消防も関係があるんですけどもね。

一つには、冬期は済みましたんで、これからいい時期になってありがたいんですけども、この概要で除雪のどうだとか、あるいは消雪の更新とか、これはハード面の整備ということで、ぜひ力強くやっていただきたいと思っておるところですけれども、除雪の体制ですね。というのは、私、遠方通勤をしております、まず市道から県道あるいは国道、そして市道、豊岡まで30キロ。一つには北但に去年から行き出しまして、北但行政の、それでちょうど40キロあるんです。雪が降る日に移動すると、大体こんな感じで私の家が例えば50センチとしますよね、50センチ、出石方面に向かって行って例えば50センチ、40センチ、30センチ、20センチ、ほんでまた30センチ、40センチとこう増えてきます、こういう山。あるいはまた但東からでしたら、北但に行くときなんかは50センチ、60センチ、70センチ、これ426のほうに、久美浜から行けるようになって。50、60、70、それからまた50、30、20、浜のほうは少なくなって。また40、50というふうな感じで。相当この広範囲な市域で積雪の差があるのは、ご承知なんでしょうけれども。

そこで一つ除雪の運用、市道、県道、国道、その今のオペレーターの不足とか高齢化ということが、それはよく分かってはおるんですけども、除雪の時間の打合せなんかは国県市としてどういうふうにされてるのか。それは振興局も含めてですけども、この辺のことがハードだけじゃなくて、ソフト、運用面についても非常に重要なんだろうなという気がしております、それが夜間なんかは、より、や

はり問題が起きるなというふうに見ておましてね。その辺のまず運用体制は、今申し上げた国県市とどういうふうにされてるんか、あるいは振興局も含めてね、それは但東振興局だけじゃなくて、特に日高なんか也大いに影響するんだろうし、竹野も影響があるんでしょうし、その辺のことはどうなんでしょいか、都市整備としては、まず、都市整備として。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） 市道の除雪につきましては、現在、豊岡市内で94の業者に委託して除雪をしていただいています。午前3時ぐらいの積雪深が10センチ以上になれば、10センチ以上で今後さらに降雪が予想される。おおむね4時以降に積雪深15センチ以上が予想される場合については、4時ぐらいから通勤の時間帯の午前8時半までぐらいに除雪作業を終えるようにということで、除雪を業者には委託しております。実際、業者も何路線か除雪してますんで、県と市の業者で調整とかっていうことってというのは、実際はしていないというふうに思っております。以上です。

○委員（福田 嗣久） 今、調整は全くなしなのか、調整っちゃうのは。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） すみません。ちょっと訂正させていただきます。除雪会議というので一応、例えば市は、どこの業者がここの路線をしますとかっていうことは、そういう程度の調整は検討はさせていただきます。以上です。

○委員（福田 嗣久） そしたら、運用についての調整はあんまりされてないってことですか、県と、まず県でしょうけども。

○委員長（足田 仁司） 富森課長。

○建設課長（富森 靖彦） そうです。県もこの路線についてはどこの業者、市はここはどこの業者ということで、当然どちらも4時ぐらいに出られると思いますんで、細かい調整ってというのは、業者同士でもしかしたらされてるかも分かりません。ちょっとそこまでは把握できてないというのはあります。

○委員（福田 嗣久） それじゃあ、振興局のほうで、除雪対応についての場所と時間と、その辺りの県の関係もあるけども、その辺は多少、調整されるんですか、振興局のほうは、例えば日高とか但東は特に雪が多いとこですけれども。

○委員長（足田 仁司） 小谷局長。

○日高振興局長（小谷 士郎） 日高の振興局としては、特に調整をするっていうことはしてないです。本庁サイドの取決めを守っていただくということで、ただ、日高の場合は神鍋地域がありますので、業者である程度判断をしながら、日中でも除雪をしていただいている状況です。以上です。

○委員（福田 嗣久） 但東も同じようなもんですか。

○委員長（足田 仁司） 大石課長。

○但東振興局地域振興課長（大石 英明） 但東振興局管内におきましても、今、日高振興局からありましたように、具体的な調整は市建設課の一本で動いております。ただ、地域によっては除雪の量が違いますので、住民の方から、たくさん降ってるので、すぐに除雪来てほしいという要望がありましたら、建設課のほうと協議しまして、調整して出ている、こういった状況になっております。

○委員長（足田 仁司） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 大体分かりまして、本庁というか、建設課のサイドの差配ということになると思いますけれども、申し上げたいのは、相当、地域差があって、ほんで、同じ地域でも本当に50センチ、60センチ、70センチ、すぐ違ってくるということがあって、見えますと、かなり遠方通勤が多いもんですから、その辺の差配がやっぱり振興局にも必要なんじゃないかなという気が、体制として、そのようなことを感じておったんです。それで、本庁の権限という話が今出ましたけども、ある程度この辺についても、振興局のほうもしっかりと対応できるような体制も、本庁と協議しながら必要があるんじゃないかなという気が、今年見て、しておりましたんで、またこれからよく、今からはシーズンではございませぬけども、シーズンじゃないときにしとかんと間に合いませんので、その辺のことはやっぱり考えて

いただきたいなというようなことを思っております。

長距離通勤だと、本当にここは30センチでもすぐ50センチ、70センチになるような場合があります。ほんで、特に私のほうから行くと、岩屋峠に向けて非常に多いし、それから、久美浜方面に向けても非常に多いし、福知山方面に向けても非常に多いということで、かなり地域差があるのは間違いないですから。ほんで、車が動かなくなるっちゃうのは大体、峠部で多いもんですからね、その辺のことが非常に気になったりしております。ですから、その辺の調整は、このシーズンオフですけども、よくしていつて、来期にも備えるということをしていただきたいということが一つと、もう一つは、消防に関係があるということをお願いしたのは、夜間の救急の、これも広いところで、高齢者の多いところだと、非常に夜間、手間取っておられるなという気もするんで、雪のあるとき、夜間、進入の仕方が、その辺の対応はどういうふうにされてるのか、あるいは状況を判断される、その辺はどういうふうにされる、ちょっと聞かせていただきたいなと思って。

○委員長（足田 仁司） 金納参事。

○消防本部参事（金納 広行） 今、雪の対応ということで質問がありましたので、お答えさせていただきます。

通常、救急、火災については、確かにたくさん雪が降ると、活動がすごく困難となっております。あらかじめ予想される場合には、救急の増員をして、除雪とか搬送にマンパワーを充実させる対応を取っております。それでもう一つ、対応としましては、消防隊も必要な場合は支援隊として出して、そこの、もちろん救急車が行けなかったら運ばませんので、一旦遠いところで救急車を止めまして、人力で運んだり、そういったためにマンパワーを充実させるような体制を取っています。以上です。

○委員長（足田 仁司） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 救急対応は非常に多いなというふうに見ておまして、そういった意味から除雪の関係も、特に夜間の除雪はどうしても遅くなると。

時間的に遅く移動する人もあるし、夜間除雪、雪が降り積もるのがすぐですから、夜間が、そのときの救急の対応、大変だろうなと思って見ておましてね。ですから、その辺も連携しながら必要はあるんだろうなということで、やっぱり広い市域を守っていかうと思えば、どうしても除雪体制っていうのは非常に重要なウェートを占めておるといふふうに思いますんで、先ほど建設課と振興局との連携もそうだし、それから消防との連携もそうだし、ある程度、地場といいますか、その地域のことは地域でやるのが一番分かりやすいですから、その辺のことをしっかりと連携というような対応を取っていただきたいなということをお願いして終わります。以上です。

○委員長（足田 仁司） そのほかございませんか。清水委員。

○委員（清水 寛） すみません、2点、建設課と防災課のほうにちょっと確認をしたいことがあります。

1点は、先ほど奥村議員の質問の回答の中で、日高の無堤地区はほぼ完成したのかなというようなお答えをちらっと聞いたんですけど、それがまあ、いろいろな問題がめどがついたんかなということ、ちょっと安心する部分もあるんですけども、その点について。

あと、防災のほうは、今のコロナの現状っていうのは、割とそういう意味では12月末でもどうかというぐらいの、ほぼほぼ災害に近いような状況かなと思うんですけども、その点について防災のほうとしてはどのように認識してるのか、この2点についてお願いします。

○委員長（足田 仁司） 北村参事。

○建設課参事（北村 省二） 私のほうからは、日高地区の堤防の関係の質問がありましたので、お答えをさせていただきます。

まず、鶴岡、日置ですけども、鶴岡のほうでは、あと数名、まだ用地買収の調印ができてない方がおられると。ただ、それもある程度、国から聞きますと、もう調印できる状況にはなってきたということで、早急に今後したいということ聞いてます。

日置につきましても、お一人の方がまだされていないということで、一部、堤防のほうは、ちょっと1回は切れとるところがございます。その分を今、用地交渉をされてるということ聞いてます。日高地区ですけれども、議員ご存じのとおり、江原墓地のところ約80メートルが残ってるんですけども、この部分につきましても、昭和59年から墓地問題ということでずっと懸案事項になっておりますけれども、我々が一番考えるのは、墓地は当然守らんなんですけれども、中に住んどる人の命、それから財産というものを一番に優先してやっぱり守らないけんということで、国に昨年からずっとお願いをしとりまして、とにかく暫定堤防でもいいからつけてくれというようなことを、国のほうに要求をしとります。昨年、江原区のほうから国に対して要望書を提出していただきまして、国は、今年予算の中に暫定堤防を造る費用と、それから当然、江原墓地も並行してやっていますので、その調査費用というのも予算化をさせていただいております。以上でございます。

○委員長(足田 仁司) 防災監。

○防災監(宮田 素) 私のほうからは、新型コロナの関係についてお答えのほうをさせていただきます。

まず、年末から、それから年初めにかけての感染者の状況なんですけれども、やはり人の移動によって年初め1月から2月にかけてかなり出ていた。その中で、特に県のほうはクラスターとは言っていないんですけども、施設関係、それから公表されてるんであれですけども、JAさん関係、あれは市としてはクラスターではないかというふうには思っているんですけども、保健所のほうはそれは認定するという事なんで、県のほうは認定されていない、そういった形でクラスター、特に施設関係で多くの方が出たというふうなことでございます。

それから4月に入って少し出ている。こちらについても年度替わりというのか、人事異動を企業さん、それから、いろんなところの人の移動によってやはり出てくるということで、今出てくるものについては人の移動、4月だから多少出てもしょうがない

など思ってたら、案の定出てたというふうな形で、やはり人の移動がこういったコロナの発生にかなり大きく影響をしている。

コロナが発生したときには、防災行政無線で言ってますとおり、本当に人と話すときは必ずマスクをすとか手洗いをしっかりすとか、換気をする、そういった基本的な対策を取っていく、そういったところの漏れがないようにしていくということが大事じゃないかなと思います。市役所の中でも、特にトイレの便器の蓋を閉めずに流されている方が結構あるので、見つけたら閉めてもらってるというふうな状況です。

引き続き、皆さんも感染症対策のほうの基本的なことをしっかりやっていただいたら、何とか押さえ込めていくのではないかなというふうに考えております。以上です。

○委員長(足田 仁司) 清水委員。

○委員(清水 寛) そうですね、まず、無堤地区の関係なんですけれども、本当にちょっとずつちょっとずつの進み方だと思いますし、特に個人情報非常に多いということもあるんで、なかなか周りに触れて回るといこともできないんですけども、そういう意味では、周りの方たちも非常に気になっておられる方はたくさんおられます。ちょっとずつ進んでるようですと、私のほうはお答えはさせてもらってるんですけども、何分やはり形が見えてき出すと、ああ、そうだっていうふうにも思われますし、その先にまだいろいろと関連してつながってくる事業というのもありますので、この部分も先ほど幾つか出てるんです、国とか県とかとうまく連携しながら、しっかり進めていただきたいと思います。

コロナ対策のほうなんですけれども、逆に言えば、今、一番多分出てる時期だと思いますし、特に新しい新型の部分というか、若い子供たちにもかかってしまうというものが今出てる。その中で、特に子供たちは、何ですかね、ワクチン接種ができないということもありますから、やはりその部分っていうのは今まで以上に、むしろしっかりしていかなければならないんじゃないかなと思います。特に予防接種

が、これは世界中から見ても日本は非常に遅れてるという状況もありますし、なかなか豊岡のほうではまだ始まっていないんですけども、そういう意味じゃ予行演習をしたりとかっていうことをされているのかどうかっていう情報も聞いてないんですけども、しっかりそういうことも市民に伝えていきながら、やはりしっかりと順番に受けてもらうということも進めていただきたいと思いますし、改めて、豊岡のほうは恐らく出ると病院のほうもすぐいっぱいになってしまうと。前回もたしか十数人かが、病床数は空きがあるんですけども、それだけ入院された時点で、病院としては、もうほぼほぼ機能できないというようなこともありました。そこは、やはり改めてしっかりと認識してもらって、やっていただきたいと思うんですけども、逆に言えば、今の防災の中に、このコロナという言葉が実は入ってないんですよ。そういう意味では、やはりこういう感染症対策っていうのも中としては考えていく必要があるのかなと思うんですけど、その点、再度お尋ねするんですけど、いかがですかね。

○委員長（足田 仁司） 防災監。

○防災監（宮田 素） 今日の資料の中にはコロナのことは入っていないんですけども、当然、災害とコロナ、両方について対応していかなければいけないなということで、健康福祉部のほうと調整をしながら庁内の、庁内といいますか、市全体のコロナ対策のほうは進めていきたいというふうに考えております。

あとそれから、ちょっと日にちは忘れたんですけども、ワクチンの打つための予行演習といいますか、訓練については近々するというふうに聞いておりますので、そちらの広報のほうをしっかりとするように、健康福祉部のほうにもお伝えをしていきたいと思います。以上です。

○委員長（足田 仁司） 清水委員。

○委員（清水 寛） 本当にその点、しっかりといただきたいと思います。

もう1点、今回、コロナが割と市内でぱらぱらと出てるって話の中で、やはり春休み中に都会か

ら帰ってこられるお宅ってところが、一つの気になってるというような話をお聞きしました。そういう意味では、これからゴールデンウィークというところで、人の動きが非常に増えてくるタイミングというのがあります。その点でもしっかりと市民の人に注意勧告するなり、周りの人の意識を高めるための取組というのをさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

○委員長（足田 仁司） そのほかございませぬか。ないようです。

ちょっと私から2点お願いしたいのは、一つは、先ほどから出てます、奥村委員や清水委員からもありました、それから福田委員からもあったと思いますが、あっ、椿野委員も、全員共通してるのは、例えば国県の事業について現場は動いてるのに何をいつまでやるんか、よう分からんと。だから、議員という立場もあるし、この委員会という立場からしても、住民から尋ねられても、いや、聞いてないで、知らんでってしか言いようがないのは、ちょっといかにも情けないので、国や県がどこまで出してくれるか分かりませんが、情報を、全部が全部は無理だと思います。厳選したもので結構ですので、情報提供は的確なものをお願いしたいなというのが一つと、あと、個人的といいますか、前にもちょっとお願いしたんですけど、除雪で国道、県道の除雪と市道が交差する交差点、除雪の跡が直角に残るので、非常に狭く感じて車が曲がりにくい。あそこの隅切りを、どっちの業者がするんかっていうようなこともぜひ検討いただいて、通行がしやすいような仕上がりになるようお願いしたいなと思っておりますので、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

それと、せっかくの機会ですので、今日5つの振興局から来ていただいています。防災に関することで、これだけはちょっと知っというほしいなとかいうようなお話があれば、うちの地域はこんな課題とかテーマがあるんだというようなことがあれば、お聞きしたいなと思いますけど、いかがでしょうか。

よろしいですか。また次回も尋ねるかも分かりませんので、またいろいろと……（「用意しとくよう

に」と呼ぶ者あり) 地元の情報、先ほど言いました情報の提供というのは、本庁とあと振興局、この間も情報を密にしといていただかないと、振興局行っても、それは本庁で聞いてくれということが多々ありますので、どこまで出せるかは難しいかも分かりませんが、ぜひ可能な限り、振興局にも、いろんな事業等もつないでいただけたらと思います。

○委員(椿野 仁司) 一つはね、いいですか、委員長。

○委員長(足田 仁司) 椿野委員。

○委員(椿野 仁司) 一つの例とすれば、例えば城崎なんかは港の地域も含まれるわけでね。そうすると今、防災の関係でいくと、高潮対策、それから今の港地区の築堤の問題、こういうところはまだ課題になったままで、高潮については対策も、道路のかさ上げもしてもらったところもあるし、だけど、やはり築堤に至ってはまだまだ本当にどうなるんだっていうところ辺がある。この辺もやっぱり振興局も把握して、本庁との連携をうまくやってもらいたいなという、その辺ですけど。よくお分かりだから、私が言う必要ないかも分からんけど、そんなところをずっと各振興局は、それぞれ、この自分たちの地域の環境に応じたいろんな防災で問題、課題は持っておられると思うから、今度のときまでにぜひ出してきていただきたいいうところです。

○委員長(足田 仁司) よろしいですか。

○委員(椿野 仁司) はい、いいです。

○委員長(足田 仁司) ほかに。

特になければ、事務概要については、この程度でとどめておきたいと思います。

以上で当局職員の方は退席いただいて結構です。お疲れさまです。ご苦労さまでした。

暫時休憩します。再開を、どうしましょう、10分ぐらいにしましょうか。11時再開。

午前10時50分休憩

午前11時00分再開

○委員長(足田 仁司) それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

次に、(2) その他ということですが、従来でありますと管外行政視察について協議を行うところですが、現在も感染拡大が止まらない新型コロナウイルスの関係で視察が難しい状況です。今後の状況を踏まえて、今年度実施の検討をしていくこととしてよろしいでしょうか。よろしいですか。(「はい」「もう仕方がないと思います」と呼ぶ者あり)

また、3月に実施しました管内行政視察の充実を図るなど、ご意見をいただきたいと思います。

○委員(椿野 仁司) いいですか。

○委員長(足田 仁司) どうぞ、椿野委員。

○委員(椿野 仁司) この間、視察をしました。私もそうですけど、こういうところを視察をしたいということで申し上げた、幾つか忘れてしまいましたけど、どこだか。ちょっとまだ残してるところがあるんだよね、まだ。(「あります、はい」と呼ぶ者あり) だから、そういうところを一度拾い上げていただいて、正副委員長のほうでご検討いただいて、また時期を見て、管内視察はお願いをいたしたいと思います。

○委員(奥村 忠俊) ちょっとよろしいですか。

○委員長(足田 仁司) はい。

○委員(奥村 忠俊) 確かにできるだけ。よろしいか。今、椿野さん言いきったとおりになんですけども、できるだけ広範囲によく市内を見せていただきたいと思うんですわ。ぜひ、よく検討していただいて、現場いいですかね、よく見させていただくことについてよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長(足田 仁司) そのほかございませんか。

○事務局主査(伊藤八千代) すみません、1点確認なんですけど、いいですか。

○委員長(足田 仁司) はい。

○事務局主査(伊藤八千代) 管内視察の関係なんですけども、例えば6月の特別委員会の日の半日を使うのではなくって、前回と同じように例えば1日とかっていう考え方でよろしいですか。(「はいはい」と呼ぶ者あり)

6月の特別委員会は、特別委員会で当局からの説明を受けるというような形で。(「うん」と呼ぶ者

あり) じゃ、また正副と調整させていただきたいと思います。

○委員長(足田 仁司) 椿野委員。

○委員(椿野 仁司) 何も伊藤さん、委員会に充てられた日でなくたって、別にまた行けるような状況になれば、その日に日にちを追加したっていいんですよ、それはだけん。もう何せここは広いんだから、ようけ見に行くところある。

○委員長(足田 仁司) 前回見た範囲では、一応区域としては、何か市域の半分近いところを見たような気もするんですけど、厳密に言えば、もっともっと支流があって、もっと谷があってという状況ですし、水系としたらね。

○委員(椿野 仁司) どこまでリクエストしたかな。

○事務局主査(伊藤八千代) 城崎のほうはまだ。

○委員(椿野 仁司) 円山川の水系の下流域だとか、あっちもあるし。

○委員長(足田 仁司) あとは竹野川の流域が全くまだね。

○事務局主査(伊藤八千代) 竹野のほうとかですね、はい。

○委員長(足田 仁司) それと、日高。

○事務局主査(伊藤八千代) 日高も見えてないですね。

○委員長(足田 仁司) 神鍋とか三方とか。

○委員(浅田 徹) 全然見てない。

○委員長(足田 仁司) はい、全然見てないんで。

○委員(浅田 徹) 稲葉川流域、それから八代川のほうです。

○委員長(足田 仁司) はい。

○委員(清水 寛) 川だけじゃない、山もありますから。冬でようけ倒木があつてという話があつて見たことがないんですけどね。

○委員(椿野 仁司) だから、できたら振興局とも連携取ってもらって、本庁っていうか、こちら側ばかりじゃなくて、さっき委員長が言われたように、ちょっと振興局で何か問題や課題がある。さっき言いましたように、その辺をちょっと掘り起こしてもらって、こんなことも実は見てもらいたいんですけど、っていうものがあつたら、リクエストされたらどう

ですか。(発言する者あり) はい。

○委員長(足田 仁司) そうしましたら、次回管内視察を日程的にはまだ未確定ですけども、考え方としては前回見れてないところを、この中で、また当局にもここを重点的に見てもらったほうがええじゃ違うかなとかという意見も聞きながら、候補を絞って、改めて皆さんにそれをお知らせして、いろいろご意見を聞きながら調整をしていきたいと。

それと、視察は、先ほど事務局からありましたように、半日と言わず、前回のように日中かけて見れる範囲、かなりの広範囲でも対応できるようにしていきたいと考えております。まだまだ自分の中でも知らないところがいっぱいあるなど実感として……(「正副委員長でよく検討していただきたいな」と呼ぶ者あり) はい。またそういった情報を皆さんにお示しして、調整をさせていただきたいと思っております。

次に、昨年11月に委員の皆さんと協議、検討をいたしました防災対策調査特別委員会重点調査事項について、2021年度前期分として、ここは変えたほうがいいんじゃないとか、追加とか削除とかも含めまして、ご意見はないでしょうか。

○委員(椿野 仁司) いいですか。

○委員長(足田 仁司) 椿野委員。

○委員(椿野 仁司) 一番今、目の前で肝心なコロナ対策っていうのは全然出てきてないんだけど、これってやっぱり最優先で入れとくべきことではないのかなというように思いますが、いかがでしょうか。

○委員長(足田 仁司) 委員さんで。

○委員(椿野 仁司) 言葉がちょっと今思いつかないんで、コロナ対策としか言いようがなかったんだけど。

○委員長(足田 仁司) 関連して、何かご意見ないでしょうか。

○委員(浅田 徹) 防災としてまあ、いろんな今、福祉関係とか、実際は常任委員会のほうでやってるわね、災害としてどういうふうなことを、じゃあ、調査するか。

- 委員（椿野 仁司） 災害でしょう。
- 委員（浅田 徹） どうするかです。
- 委員（椿野 仁司） コロナも災害だ。
- 委員（浅田 徹） その辺もちょっと整理したほうがいいと、漠然とぼんと出すんじゃなくて、何をどう。
- 委員（椿野 仁司） だから、今お考えいただいて、いやいや、防災という立場でっていうことでは関係ないということになれば、私も言うことではないんですが。ただね、現状、今のコロナに関しての災害だということで、今の何だっけ、緊急、何だっけ。対策本部会議じゃない。（「緊急事態宣言」と呼ぶ者あり）緊急事態宣言になったときには、本部も設置され、議長も常任委員長もみんな出席をし、防災、特別委員会も委員長、出とうなるの。
- 委員長（足田 仁司） 出ました。
- 委員（椿野 仁司） その所管は、防災課が全て本部としてやってるということから考えれば、コロナの災害って、私は大災害だと思うんだけど、だから、私はこの特別委員会の重点の中に最優先で入れるべきことではないのかな。今日も主要概要の中にコロナって出てきてないんで、何でって言ってって、私も不思議でしょうがなかったんだけども、あえて出さなかったのか、そういう該当しなかったのかって、多分該当しなかったとは言わないと思うけども、防災課は。（発言する者あり）うん、と私は思います。別に入れたからどうだとか入れなかったらどうだということを言っとるわけじゃないですよ、私は。
- 委員（福田 嗣久） よろしいか。
- 委員（椿野 仁司） どうぞ。
- 委員長（足田 仁司） 福田委員。
- 委員（福田 嗣久） 今、総務、文教民生、建設でコロナ対策上がってるんですね、そっちの重点項目で。
- 委員（足田 仁司） たしかやってたと思いますね。
- 委員（浅田 徹） ああ、総務入ってますね。
- 委員（福田 嗣久） 建設はもちろん入ってるね。
- 委員（浅田 徹） 当然やってますね。
- 委員（福田 嗣久） だから、もうそれでいいんちゃう。
- 委員（椿野 仁司） いやいや。
- 委員（福田 嗣久） だから、具体的に例えば……。
- 委員（福田 嗣久） 例えば防災についての防災課の全体については、総務がする。それから、蔓延防止とか医療体制とか、そういったことは文教民生がする。それから、経済対策としてのコロナは、建設経済、それで、またここに入れても、具体的なことは何をするんだっていうことなんで、情報、話のそこだけでも。
- 委員（椿野 仁司） いや、私は今、問題提起しただけだから。（発言する者あり）うん、いや、必要がないっていつて言われると辞めなったらいいんだし。
- 委員（福田 嗣久） だから、どうかなと思って。
- 委員（椿野 仁司） 私は今までの防災会議や何かを見とると、うん、防災課は我々のところですので、話が出とるんかなと。
- 委員（福田 嗣久） だから、常任委員会で皆出とるようなことで、上げてもどうかなという気もするんだけど、具体的に何をするのかな。やぶさかではないんだけど。
- 委員長（足田 仁司） 若干気になるのは、防災監は1人いますけど、じゃあ、健康福祉もない。それから、産業経済……（「話、聞くだけ」と呼ぶ者あり）産業経済、そこもないという中での具体的な項目っていうのが、ちょっとイメージがなかなかしにくいかなという。
- 委員（椿野 仁司） でもね、でもね、でもね、例えば大きなクラスターが出たときの市民の動きだとか。
- 委員（椿野 仁司） 何か考えられることではないのかなというふうなことも思うんだけどね。
- 委員（福田 嗣久） 挙げなったらいいんじゃないですか。
- 委員（椿野 仁司） いやいや、挙げるだけは挙げる。
- 委員（奥村 忠俊） 今日ね、よろしいか。
- 委員長（足田 仁司） 奥村委員。

○委員（奥村 忠俊） 防災課、挙げてはなかったんですけども、椿野委員言うように、僕もそう思うんですよ。ただ、発言しなかったんですけども、全然答えるあれがなかったもみや、どうなんかなと思ったんですけども、本当にこれは何度も言いますように、こうなったっていう本当に災害です。全体が世界中そうなるものですから、だから、市としてはどういうふうにしてこれを防衛していくとかね、そこら辺はそういうふうな観点からいえば、この委員会でもやっぱり説明してもらわなければならないと思いますわ。だから、その辺もどこまでいくかは分かりませんし……（「そうやね」と呼ぶ者あり）文教委員会がするのかなんとか、それは分かりませんがね。とにかく問題が大き過ぎるものですから、これ、じゃあ、一部の議員だけでというようなことでも済むようなわけにも、どうかなと思ったりするんですけどね。椿野委員言われるように、ここで防災監として、防災のほうからは、こういう形で取り組んでるとかいう話ができるんなら、それはもうぜひ聞かせてもらいたいなと僕は思います。

○委員（福田 嗣久） 委員長、入れたらどうですかね。これ入れに。

○委員長（足田 仁司） このコロナ対策について。

○委員（椿野 仁司） いや、委員長が会議に招集されとるっていうところの意味合いからいって持ってくる私は。3人の常任委員長が行っとうなるのは、それぞれ所管があって、そうやって出しておんなるんですけど。（「そうそう」と呼ぶ者あり）だって、委員会にコロナ対策が入ってないの重点化。委員長が行っておられる意味合いがそれだったらないじゃないですかねと、私は思っていました。

○委員長（足田 仁司） 少し違和感はありましたけど。

○委員（椿野 仁司） うんうん。でも、防災という立場も多分入っとるんだらうと思いますよ。

○委員長（足田 仁司） 災害というのをそこまで広げて考えると、ここの委員会、この程度っていったら叱られますけども、この程度の委員会ですら所管できるんだらうかっていうちょっと不安があって、ここ

は具体的に大雨だとか洪水だとかそういう……。

○委員（福田 嗣久） 委員会所管をすると、ほんでも担当に出てきてもらわなんちゃう。

○事務局主査（伊藤八千代） そうですね。

○委員長（足田 仁司） そうです、そうなってくる。

○委員（福田 嗣久） もちろん出てきてもらわな。

○委員長（足田 仁司） だから、今、防災監だけでしょ。

○委員（福田 嗣久） 防災監だけ。

○委員（椿野 仁司） 所管なのか重点なのか。ほんなら、もうやめましょう。ちょっとうっとうしいんでやめましょう。

○委員長（足田 仁司） うん。

○委員（椿野 仁司） うん、やめたらええよ、そのほうがいい。

○事務局主査（伊藤八千代） コロナ対策で、例えば8番で自主防災組織についてっていうのがありますよね。例えば避難するとき、どんなコロナ対策をしてるかっていうようなことを、防災課のほうから説明っていうのは多分可能だと思うんです。

○委員長（足田 仁司） そういう、ごっつい具体的な関わりもところどころあるんでね。

○委員（福田 嗣久） それはあるんでしょうけど、コロナ対策を……（「対策という」と呼ぶ者あり）うたってしまったらいいので、答弁できない部分かなり出てくるので、そこに全部また入っていかんならんちゅうことだらう。

○事務局主査（伊藤八千代） そうですね、例えば社会福祉課とか健康増進課とか。

○委員（福田 嗣久） そうそう、社会福祉もそうだし、健康増進もそうだし。

○委員長（足田 仁司） 特定避難所の設営、運営考えただけでも、まさに今コロナ対策をきちっとやらなあかんわけですから、それ考えたら、水害だ何かももうセットの部分をはっきりあるのはあるんですよね。

○事務局主査（伊藤八千代） あと、1番の本庁、振興局の防災体制っていうのも庁内事業計画、BCPの中にもコロナ対策が入ってくると思うんです。

- 委員(福田 嗣久) どうしたらええかな、それで。
- 委員長(足田 仁司) 難しいな。
- 委員(椿野 仁司) いや、もうそんなに私は深く考えずに、難しく考えずに言っただけのことなんで、別にそこまで時間をかけて話し合うことでもないと思いますので、却下させてもらいますけど。
- 委員長(足田 仁司) おっしゃるように・・・。
- 委員(椿野 仁司) はい、それでよろしいと思います。それで、ただね、僕、ちょっとここに括弧書きで、今の今言った1番だとか8番だとか、そういうところにコロナ対策を、括弧含むということを入れておいてもらったらどうかと。
- 委員長(足田 仁司) ああ、なるほどね、はい。
- 事務局主査(伊藤八千代) コロナ対策を含むっていうことで……(「そうそう」と呼ぶ者あり) 1番と、じゃあ、8番に。
- 委員(椿野 仁司) 1番と8番と。
- 事務局主査(伊藤八千代) はい。括弧書きでそれを入れさせていただきます。
- 委員長(足田 仁司) 当然関わってくる部分があるんだし、災害には違いない。
- 委員(清水 寛) 9番も入れてもいい。
- 委員(椿野 仁司) 9番の子供、防災意識。
- 事務局主査(伊藤八千代) 9番もですね、ああ、そうですね。
- 委員(椿野 仁司) そうだよな。(「うん」と呼ぶ者あり)
- 事務局主査(伊藤八千代) じゃあ、1、8、9については、括弧書きで。
- 委員(福田 嗣久) 1、8、9、そうですね。
- 委員(椿野 仁司) そうですね。
- 事務局主査(伊藤八千代) コロナ対策を含むということで追加をさせていただきたいと。
- 委員(椿野 仁司) いい案ができました。じゃあ、それでいったらどうですか、委員長、コロナ対策を含むで。
- 委員長(足田 仁司) はい、落としどころとしてはよかったけど。
- 委員(椿野 仁司) じゃあ、却下しませんので。
- 委員長(足田 仁司) 先ほどの発言はなかったということで1番、8番、9番。
- 事務局主査(伊藤八千代) はい、1、8、9ですね。
- 委員長(足田 仁司) ここに括弧書きでコロナ対策を含むと。そういうことを付け加えるということでもよろしいでしょうか。(「はい、結構です」と呼ぶ者あり)
- 浅田委員、今、決めようとしてるのは、重点項目の1番、8番、9番にコロナ対策を含むというふうに。大きい項目では上げないけど。
- 委員(浅田 徹) はい、了解しました。了解です。
- 委員長(足田 仁司) そうすれば、災害時の例えば避難所の設営、運営がそこで関わってきますんですね。
- じゃあ、そういうことにさせていただきます。
- ほかに何かご意見、発言したいということはありませんでしょうか。
- [「なし」と呼ぶ者あり]
- 委員長(足田 仁司) それでは、以上をもちまして本日の防災対策調査特別委員会を終了いたします。ご苦労さまでした。

午前11時15分閉会